



津別町長  
佐藤 多一

# 3期目を迎えて

町民の皆様、新年明けましておめでとございます。輝かしい平成27年の新春を穏やかに迎えたいとお喜び申し上げます。

このたびの町長選挙におきましては、町民の皆様をはじめ、各方面から力強いご支援と心温まるご厚情をいただき、無投票当選の栄に浴し、三度町政の重責を担わせていただくことになりました。お寄せいただいたご期待とご信頼に恥じぬよう、志を高く町づくりを進めて参ります。

さて、政府は11月21日、衆議院の解散を前に、地方創生の理念を定めた「まち・ひと・しごと創生法案」と「地域再生法の一部を改正する法律案」の2つの法案を可決・成立させました。これらは、日本の急速な少子高齢化の進展に対応し、人口減少に歯止めをかけ、東京への過度な人口集中を是正して、それぞれの地域を住みよい環境にすることを目的としています。

政府はこの法律を地方創生の大きな一歩と位置付け、50年後の人口を1億人と想定し、活力ある日本社会を実現するための5か年計画を示すとしています。

こうした国の動きの中、津別町は今年「第5次津別町総合計画」の折り返しの年を迎えます。平成22年にこの計画がスタートして以来、「町は舞台、町民が主役」というスローガンを何度も何度も口にし、活字にしてきたところです。町民の皆様の耳にはタコができたかも知れませんが、しかし、この言葉は町の方向性を示すキーワードであり、今年も何度も口にして参るつもりでいます。

今年、津別町は明治16年に旧土人救済事務取扱所（津別町史による）を活版に設置してから132年になります。この長い歴史の中で、町を形つくる建物の建設と取り壊しが繰り返されてきましたが、今日、老朽

新年明けましておめでとございます。町民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのこと心からお慶びを申し上げます。

昨年の国内経済は、円安と株価回復を背景に一部の企業では業績を伸ばした一方で、4月の消費増税後の反動減と物価上昇によって、個人消費は伸び悩むなど、地方経済への波及効果は限定的なものとなり、景気

回復を実感できない状況が続いております。

政府は、昨年の暮れに景気回復とデフレ脱却を優先し、今年10月からの消費税率10%への引き上げを延期しました。増税の延期で個人消費の下押し感が薄れて、景気には当面プラスに働く一方で、財政再建が遅れて国及び地方の財政収支の悪化と、さらには、税収の増加分を充てる医療や介護、子育てなど社会保障の充実後は後退するのではないかと懸念されております。

このような中、本町の基幹産業の農業では、昨年11月に農業経営のサポート事業の一つであるTMRセンターが竣工したことで、共同利用による経費削減と労働力の軽減などが図られるものと期待するところであります。

また、懸案であります国営農地再編整備事業につきましては、農地の土地利用を再編し生産性の向上により、農業振興を基幹とした地域活性化を推し進めるため、平成27年度からの早期事業着手を望むところであります。

さらに、政府において関係国との協議が続く「TPP」交渉は、農業経営や関連産業、また、安心安全な農畜産物の生産供給体制を維持するうえでも重要な問題であり、政府の慎重かつ適切な対応を求めているかなければなりません。

化が進み、空き家・廃屋が目立つようになりました。この間、人口も過疎化の進行とともに、かつての3分の1に減少しています。こうした現実を受け止め、今後、暮らしやすくコンパクトでスマートな町づくりを推し進めていく必要性を強く感じているところです。

3期目の立候補にあたって、町民の皆様は6つの約束をさせてくださいました。①第1次産業の振興、②少子化・高齢化社会への対応、③中心市街地の活性化、④自治会と集落の活性化、⑤老朽化したインフラの整備、そして、⑥もったいない地域資源の活用が6つであり、この4年間で一つ一つ実現して参ります。

中でも「まちなかの再生」は、大

# 謹賀新年



一方、林産業では、植林された人工林が伐採・再造林期を迎える中、森林資源の持続的な保全管理の重要性と並行して、これまで検討されている森林バイオマスの熱電利用につきましても、それぞれ課題を乗り越えながら具体化し、愛林の町にふさわしい環境負荷の少ないエネルギー資源の活用が実現することを期待するものであります。

保育及び教育では、この4月から町内の幼稚園と各保育所が、子育て支援体制を整備・充実させた中で、幼保連携型の認定こども園としてスタートいたします。また、活版小学校、本岐小学校が津別小学校に統合されることとなります。地域の中心的施設であった幼稚園や保育所、小学校が永い歴史と多くの思い出と共に役目を終えることとなりますが、それぞれ新しい環境のもとで、町の未来を担う子どもたちが健やかに成長していく

変大きなテーマであり、実現にあたっては大きな費用も伴います。1990年代にイギリスのチャールズ皇太子が「アーバン・ビレッジ（都会風な村）」という町づくりを提唱していますが、この理念も参考としながら、魅力的な町づくりを進めて参りたいと考えています。小さな町だからこそ、きつとできると思っています。そして、強力な助っ人に長くラグビー合宿で親交のある筑波大学が加わってくれました。構想づくりの折々に、町民の皆様の見解を聞く場を設け、夢のあるロマンチックなエゴタウンづくりを進めて参ります。

結びに、ひつじ年の本年が、皆様にとって良い年でありますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

ことを願うところであります。

今年は、町の将来を託した第5次総合計画の後期5年間の始まりにあたる年であります。前期の検証を踏まえ、必要な各種事業が取り組まれていくこととなりますので、議会として機能を十分に発揮してまいりたいと存じます。

また、当議会では、昨年12月の定例会よりインターネット配信を開始し、わかりやすく開かれた議会に向けて活動しております。

今後、町民の皆様の声が町政に反映され、豊かな暮らしを実感できるまちづくりを進めていくため、改革を継続しながら議会として責任と役割を果たしていく所存でありますので、なお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、本年が明るく希望の持てる一年となりますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。年頭のごあいさついたします。



津別町議会議員  
鹿中 順一

# 議会の責任と役割